※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００２

令和５年度　農業科（資源動物科）

教科	農業	科目	畜産	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等	「畜産」　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

科目「畜産」では、（1）畜産物は重要な食料の供給源である（2）日本の地域経済にとって重要な柱である（3）畜産は環境の守り手である（4）畜産は食と農をつなぐ大事な命の教育現場である　以上の４つのポイントを学んでいきます。そして、1年次では「日本の畜産の特徴と役割」「家畜の生理・生態と飼育環境」について学び、科学的な考え方や知識を身に付けます。

２　学習の到達目標

・畜産が食料供給において重要な役割を果たしており、地域経済にとり重要な産業であることを理解する。
・畜産が人々の健康と生命に直結し、豊かな生活を提供する社会的役割を担っていることを理解する。
・合理的な家畜管理と品質や生産性の向上をはかる能力と態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家畜の特性や、飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身につけ、飼育技術を総合的・体系的に理解できている。 家畜の特性を理解し、各家畜に適した飼育管理技術、家畜および畜産物の利用方法を身につけている。 畜産の今後の発展と人間関係との関わり、地球環境との関係について理解している。	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境および飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて適切に判断する能力を身に着けている。	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味関心をもち、家畜と飼育環境の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身につけ、畜種に応じ適切な飼育環境ができる意欲的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期 2学期	日本の畜産の特徴と役割	○日本の畜産の特徴 ○日本における畜産物の需給の動向 ○畜産の役割 ○科学の発展と畜産への活用	a　家畜の特性や、飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身につけ、飼育技術を総合的・体系的に理解できている。家畜の特性を理解し、各家畜に適した飼育管理技術、家畜および畜産物の利用方法を身につけている。畜産の今後の発展と人間関係との関わり、地球環境との関係について理解している. b　家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境および飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて適切に判断する能力を身に着けている。 c　家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味関心をもち、家畜と飼育環境の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身につけ、畜種に応じ適切な飼育環境ができる意欲的な態度を身につけている。	定期考査	ノート レポート 定期考査 出席	授業観察 ノート レポート 定期考査 出席

※令和４年度以降入学生用

2学期 3学期	畜産の生理・生態と飼育環境	○家畜の生理･生態 ○飼育環境の調節 ○家畜排せつ物の処理と利用	a　家畜の特性や、飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身につけ、飼育技術を総合的・体系的に理解できている。家畜の特性を理解し、各家畜に適した飼育管理技術、家畜および畜産物の利用方法を身につけている。畜産の今後の発展と人間関係との関わり、地球環境との関係について理解している。 b　家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境および飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて適切に判断する能力を身に着けている。 c　家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味関心をもち、家畜と飼育環境の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身につけ、畜種に応じ適切な飼育環境ができる意欲的な態度を身につけている。	定期考査	ノート レポート 定期考査 出席	授業観察 ノート レポート 定期考査 出席

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度